

水土里レポート 投稿様式

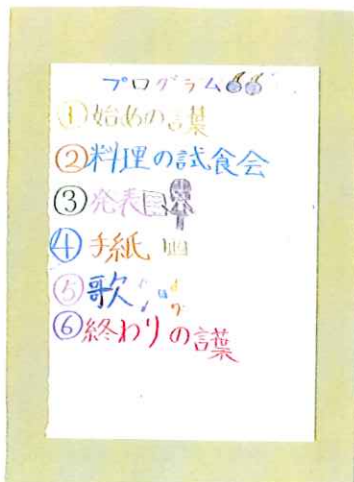
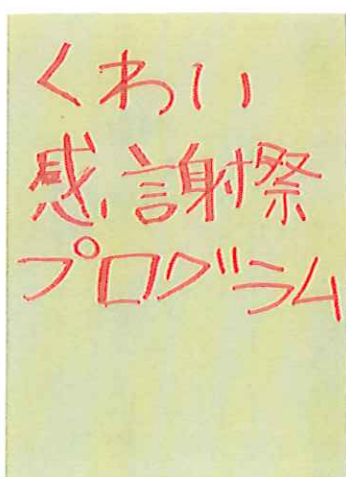
投稿月日	平成27年3月20日
タイトル	「くわい感謝祭」に招待されました！
水土里レポーター名	水土里ネット福山 佐々田 愛

平成27年2月27日（金）福山市立川口小学校5年生100名が、今年度「くわい」を通じて知り合った関係者を「おもてなし」するため「くわい感謝祭」を催され、招待していただきました。

川口小学校5年生は「くわい」の栽培をし、農家の方から生の声を取材することで、農業用水のしくみや環境、歴史、食文化など多方面について関心を深めることを目的とした学習に取り組んでおられます。

「くわい感謝祭」の参加者はクワイ出荷組合 枝廣組合長、くわい農家の種本さん、福山市農協三谷係長、地産地消推進課苗代迫主事、福山市土地改良区からは佐々田が参加しました。

少し早く学校に着いたのですが、学校の玄関ではすでに迎えの係の子ども達が待っていてくれ、丁寧に迎え入れてくれ、校長室へ案内してくれました。校長室では、プログラムと「くわいの一年間」というパンフレットをいただき、子ども達がお茶を出してくれました。



9月～11月上旬
大きく育ったくわいの
上のくきを切り取ります。
むらと1つ以上の
大きさに育ちました。

くわいの一年間の流れ
10月 11月～12月
1つ～1つ 収穫
手作業で 収穫
植えました。 葉を育ててくれ
収穫の喜びを
と肩いながら、

くわい感謝祭は、プログラムに沿って①始めの言葉としてくわいを通じて一年間、いろんな方にお世話になったことなど、感謝の気持ちを聞かせていただきました。

②の料理の試食会は、子ども達が考えたレシピの中から「くわいポトフ」と「くわいピザ」をいただきました。子ども達が、学校で栽培した「くわい」を使って、一生懸命つくってくれたポトフとピザはとてもおいしかったです。作り方が分かり易いように、レシピの内容を紙芝居に見せてくれました。



くわいポトフ

くわいピザ

③発表では、一年間で学習した内容を発表されました。くわいの歴史やふくやまSANブランド、くわいを使った製品やくわいの流通、奇跡の水として七社用水の事を創作劇で披露してくれました。どれも今年1年間を通じて出前授業や農業体験で学んだことをよく理解して分かり易く楽しいものにしていました。



みんな、とっても伸び伸びと替え歌を歌ったり踊ったり、クイズを出したり、劇をしたり…。一年間、学んだことをよく理解して、しっかりまとめができていて素晴らしい発表でした。会場全体が、自然とみんなの笑顔や笑い声に包まれて、とても楽しい一時でした。

④手紙では、参加者へそれぞれ手紙が渡されました。私がいただいた手紙には、七社頭首工用水のことを知って、びっくりしたこと、農業用水の大切さに気付いたことなどが書いてありました。



出前授業では、うまく説明できなくて、きっと子ども達はよく分からなかっただろうかと反省していました。でも子ども達は、内容をとてもよく覚えていてくれて「除塵機」という難しい専門用語まで使っていました。とてもうれしかったです。

⑤歌では、学習発表会にむけて練習している歌を披露してくれました。みんな伸び伸びと歌っていました。

手作りのゆるキャラも登場！
みんなで合唱している時もカメラ目線？
なのでした。
大きくなったら「くわいっこ」の箱になりたい
そうです。



⑥終わりの言葉では、改めてお礼の言葉をいただきました。小野先生からは「この子ども達は福山で育って福山を担う子ども達です。今後もいろんな場面でご指導をお願いします。」と言葉をいただきました。

参加者を代表して枝廣組合長から「よく勉強された内容の発表で素晴らしかったです。一生忘れられないでしょう。」と言われ、三谷係長からは「四月からは最高学年になられるので、下級生にくわいのことを教えてあげてください。」と言われました。

帰りは玄関まで見送っていただき、最後に「今日はありがとうございました。」と丁寧に挨拶をしてくれました。

5年生全員が、何かの役割に着いていて、それぞれが精一杯の「おもてなし」をしてくださいました。

本年度、手探りで21世紀土地改良区創造運動をしてみりましたが、このような「おもてなし」をしていただいて、とても感激しました。